

近畿中国四国農研 14 : 64-67 (2009)

スギ, ヒノキ樹皮粉碎繊維の植物生育阻害要因の除去と イチゴ高設栽培への利用

久田紀夫 森下年起¹ 林恭弘 北原伸浩² 橋本真穂

和歌山県農林水産総合技術センター農業試験場

Removal of Plant-growth Inhibition Factor in Cedar and Hinoki Bark
and Use to High Bench Culture of Strawberry

Norio Hisada, Toshiki Morishita, Yasuhiro Hayashi, Singo Kitahara and Maho Hashimoto

*Agricultural Experiment Station, Wakayama Research Center of Agriculture, Forestry and Fisheries,
Kinokawa, Wakayama 640-0423*

摘 要

樹皮粉碎繊維の農業分野での利用方法を確立するため、培養土素材として用いる場合の植物生育障害要因の除去方法を検証するとともに、イチゴ高設栽培におけるピートモスの代替培地としての利用について検討した。

1. スギ, ヒノキ樹皮の窒素取り込み量は、10 ~ 20mg/100g であり、稲わらの 1/100 ~ 1/50 と少なく、通常の施肥量でも作物に窒素飢餓を引き起こす可能性は低いと考えられた。
2. 新鮮なスギ, ヒノキ樹皮を培養土資材として用いる場合、生育阻害物質要因の除去のため 0.2 % 硫酸第一鉄溶液による鉄処理が有効であった。
3. イチゴ高設栽培用培地として利用する場合においても、新鮮なスギ, ヒノキ樹皮の鉄処理を行うとピートモス培地と同等の生育、収量が得られた。

¹現在：農林水産部農業環境保全室

²現在：那賀振興局地域振興部農業振興課